

第2部

# 圏域別計画





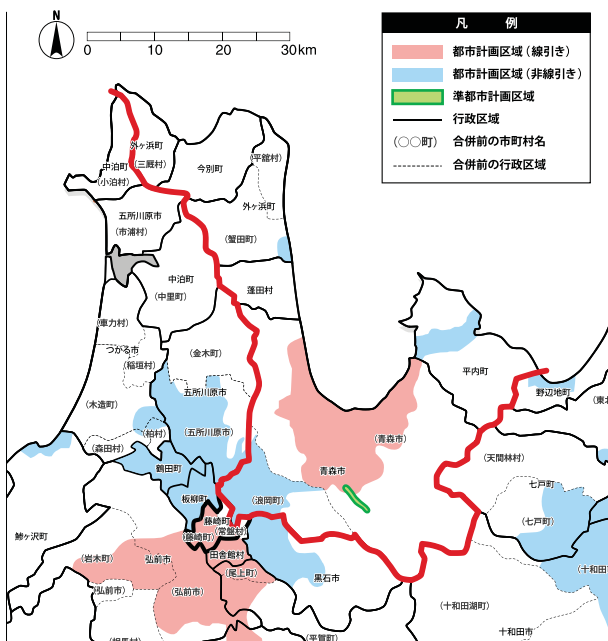


# 東青圏域

多彩なビジネスや生活様式を実現できる県都を中心とした活力圏域

- [構成市町村] 青森市・平内町・今別町・蓬田村・外ヶ浜町  
(1市3町1村)
- [人口] 340,427人  
(青森県全体の23.7%/平成17年国勢調査より)
- [面積] 147,734ha (青森県全体の15.4%)

図 東青圏域の市町村



東青圏域は青森県の中央に位置し、青森市、平内町、今別町、蓬田村、外ヶ浜町の1市3町1村により構成されています。人口は青森県全体の23.7%、面積は青森県全体の15.4%を占めています。

本圏域は陸奥湾に面し、南部の八甲田山系、北部の竜飛崎、東部の夏泊半島など自然環境に恵まれています。圏域南部では八甲田山系から陸奥湾に注ぐ河川があり、圏域西部には津軽半島中部の山地から津軽海峡や陸奥湾に注ぐ河川があります。

縄文時代の三内丸山遺跡や平安時代の蓬田城址などの古跡が多くあり、古くから居住地として適していたと考えられます。青森市はかつて津軽半島から夏泊半島にかけての外ヶ浜の一漁村でしたが、移住奨励策により商人が集まり、津軽藩最大の商港として栄えました。

かつては多くの町村が存在していましたが、昭和の大合併で13市町村が青森市に合併するなど市町村合併が進みました。平成の大合併で1市1町の合併で青森市、1町2村の合併で外ヶ浜町が誕生しています。

## I 東青圏域の特徴と課題

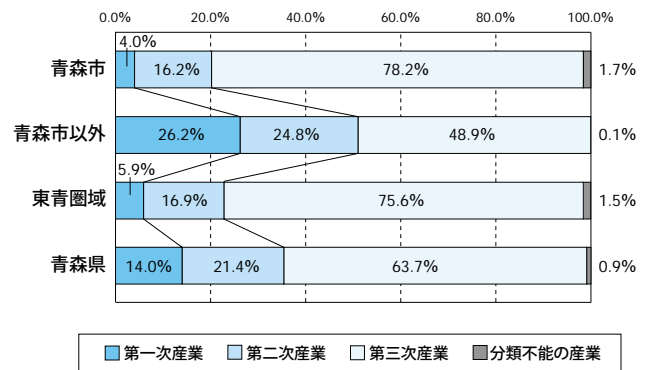
### (1) 都市型産業が卓越している圏域

#### 特徴 1

青森市では商業などのサービス業を中心とする都市型産業が発達し、第三次産業就業者割合が約8割となっていますが、町村部では第一次産業と第二次産業の比率が高く、両者ではっきり異なる特徴が現れています。

第一次産業においては、農業産出額の184億円（H18）に対して、漁獲高は109億円（H20）と、農業と同様に水産業が盛んです。農業は稲作を主体としていますが、浪岡地区ではりんごの産地が形成されています。漁獲高や漁獲量は三八圏域に次いで県内で2番目に高く、ホタテやナマコを主力産品としています。

図 平成17年産業大分類別就業人口割合



資料:国勢調査

#### 課題 1

都市部における都市型産業、農漁村地域における農業や水産業といった、地域特性に応じた産業基盤の強化が求められています。

#### 特徴 2

青森市は本県経済の中核を担う業務都市であり、県を代表する金融機関や主要企業の本支店が集積し、関連する多種多様な都市型産業も発達しています。

工業では圏域の製造品出荷額の約9割を青森市が担い、そ

の4割を水産加工や味噌・醤油を中心とする食料品製造業が占めています。青森市には臨海部、西部工業団地、南部工業団地、青森中核工業団地などの産業・流通用地が整備されています。工業専用地域内には未利用地があり、用地には比較的余裕があります。

#### 課題 2

金融機関をはじめとする主要企業の本支店の集積や交通結節点という優位性、豊かな人財などをいかした戦略的な産業展開が求められています。

#### 特徴 3

県都青森市を中心として高速道路、鉄道、空路、航路などの広域交通が充実しています。さらに、東北新幹線新青森駅の開業や東北縦貫自動車道八戸線の八戸～青森間、津軽自動車道の五所川原～鯉ヶ沢間、下北半島縦貫道路の野辺地～むつ間、北海道新幹線の新青森～新函館間の整備により、青森市の広域的な交通結

節機能はより一層高まるものと見込まれます。圏域内では、青森市を中心に放射状の幹線道路網の整備が進められています。

また、本圏域には東北三大祭りの一つである青森ねぶたや縄文時代最大の集落遺構である「三内丸山遺跡」、八甲田山の温泉地などがあり、高速交通体系の整備を背景に観光客は微増傾向にあります。

#### 課題 3

各種産業の展開にあたり優位性のある圏域として、東北縦貫自動車道八戸線の延伸など、交通結節機能のさらなる強化が求められています。

東北新幹線新青森駅開業をはじめとする広域交通の充実と全国的に有名な観光地や祭事をいかながら交流人口を増加させて圏域の活性化につなげることが求められています。

図 観光入込客数の推移

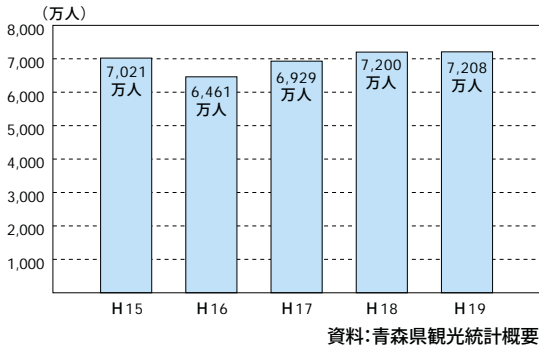


図 観光入込客数の推移 (H15=100.0)

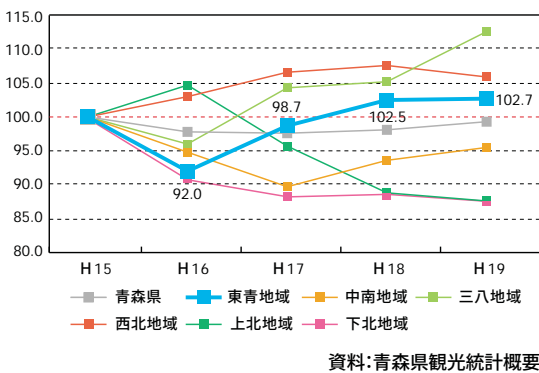
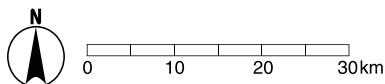
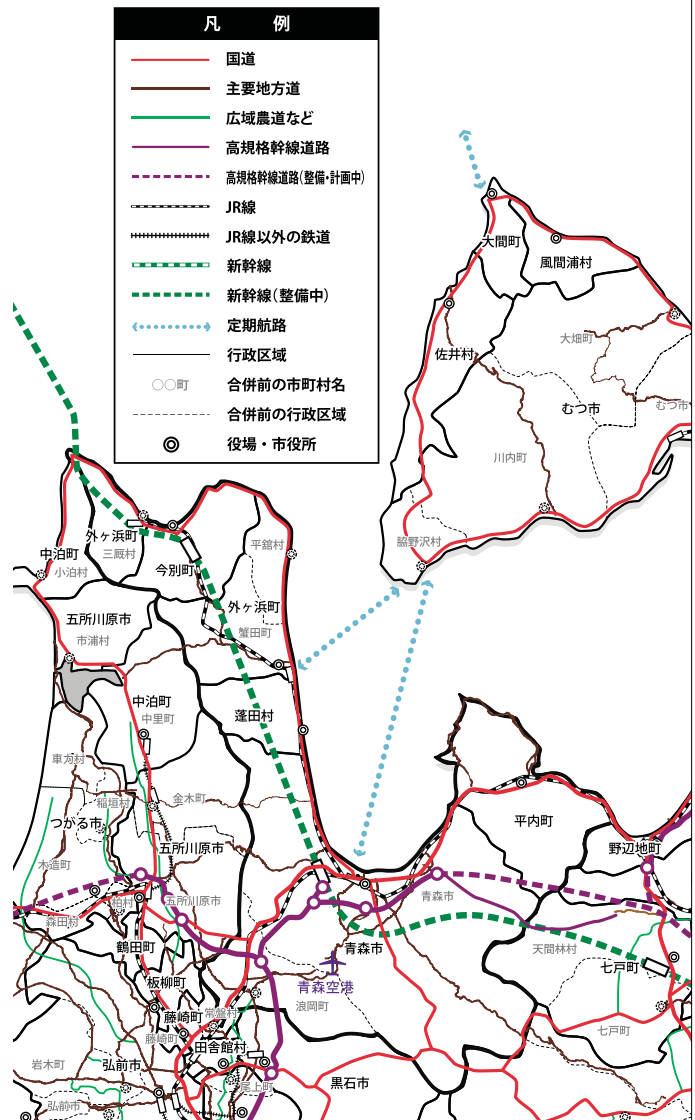


図 交通網の状況



## (2) 青森市に多くの機能が集中している圏域

### 特徴 1

本圏域は県都青森市を中心に陸奥湾沿いに広がっています。青森市は圏域人口の9割を占め、行政、交通、商業・業務、医療、教育、文化、レクリエーションなどの様々な分野において高次都市機能を有しています。青森市の商圏や高度医療の受益圏は、本圏域の他

上北圏域北部や下北圏域にも広がるなど、青森市は県内全域を対象とする都市的サービスの供給基地となっています。

青森市から遠隔地となる津軽半島北部では、外ヶ浜町蟹田地区が医療に関して、今別町が教育に関して都市的サービスを補完する拠点となっています。

### 課題 1

本県のほぼ中央に位置し、県都を擁する本圏域では、圏域内のみならず全県に対する都市的サービスの供給を見据えた高次都市機能の集積が必要です。したがって、青森市を中心に都市的サービスの充実を図るとともに、青森市から遠隔地となる津軽半島北部では、外ヶ浜町及び今別町による機能補完も求められます。

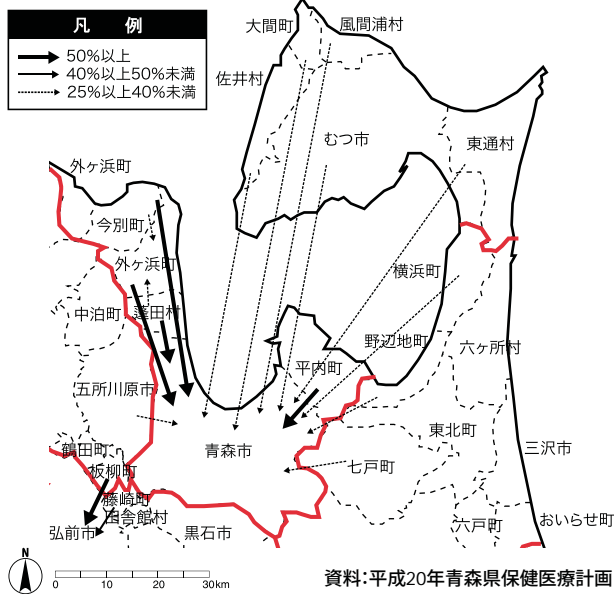
特徴  
2

中心都市の青森市は、国、県の行政施設や医療施設、文化・教育施設などの主要施設、県内に本支店を置く民間企業の多くが立地しています。

これらの施設は、施設相互の効率的な利用やにぎわいのあるまちづくりの観点から、中心市街地への立地誘導が行われています。

遠隔地となる津軽半島北部では、外ヶ浜町蟹田地区の外ヶ浜中央病院や、今別町の県立青森北高等学校今別校舎が広域的に利用される他、今別町は新幹線駅の開業によって広域的な玄関口として機能することが見込まれます。また、平内町や青森市浪岡地区にはまとまった市街地が形成されており、日常生活を支える拠点となっています。その他の地域には、蓬田村、外ヶ浜町三厩地区及び平館地区など、農山漁村の生活拠点となっている主要集落が分布していますが、著しい人口減少が見られます。

図 医療依存度

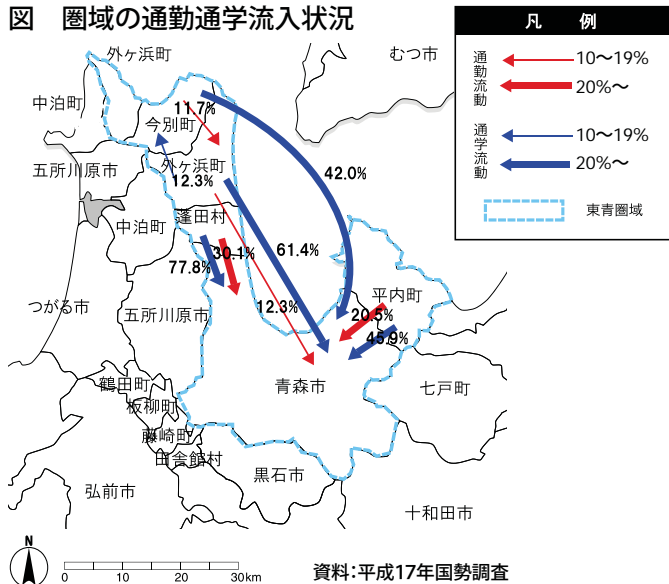


課題 2

県都青森市のさらなる都市機能集積とその質の向上を図るため、既存の社会資本を活用しながら求心力と魅力あるコンパクトシティづくりが求められています。さらに今後の施設の再配置も視野に入ると、郊外にある公共施設の中心市街地への立地を進める必要があります。

また、津軽半島北部における機能分担・連携の推進、さらに圏域住民の日常生活を支える主要な集落を維持するための環境整備が求められています。

図 圏域の通勤通学流入状況



特徴  
3

本圏域は、本県の玄関口として、東北縦貫自動車道、JR各線、青森空港、青森港などの広域交通ネットワークの拠点となっており、

東北新幹線新青森駅の開業に伴い拠点性はさらに高まると見込まれます。また、こうしたネットワークを基盤に、大都市を有しない上北・下北両圏域をはじめとする他圏域からも、多くの住民が青森市の都市機能を利用しています。

圏域内の道路交通網や鉄道などは比較的整備されていますが、青森市、平内町、蓬田村、今別町は特別豪雪地帯に指定される県内でも有数の多雪地帯であり、冬季の交通渋滞などの大きな影響が見られます。

鉄道ではJR東北本線と奥羽本線、津軽線、海峡線がありますが、新幹線の延伸に伴い並行在来線の利便性の低下が懸念されています。

課題 3

圏域内交通網はもちろんのこと、他の圏域からも青森市の高次都市機能を容易に利用できるよう、全県的な交通ネットワークの結節機能の充実が求められています。

また、冬季の円滑な移動の確保や安心を支える代替路の確保といった交通機能の充実が求められる他、並行在来線をはじめとする地域交通については、日常生活に密着した交通体系として利便性の確保が課題となっています。

(3)「陸奥湾や八甲田山系などの大自然が身近にある圏域」

特徴 1

本圏域は、南に八甲田連峰や大釈迦丘陵、東に夏泊半島や東岳、八幡岳、そして西には津軽半島を南北に津軽山脈が連なっており、これらの山地に囲まれるように陸奥湾に向かって平坦地が広がっています。



八甲田山 (青森県HP)



新青森県総合運動公園 (青森県HP)

圏域内の自然公園として、青森市東南部の八甲田山付近が十和田八幡平国立公園、津軽半島北部の海岸線が津軽国立公園、夏泊半島の海岸線が浅虫夏泊県立自然公園に指定され、自然環境の保全が図られています。

広域的に利用される大規模公園として、青森市街地の東西に青森県総合運動公園と新青森県総合運動公園があります。

課題 1

圏域内の美しい自然環境の保全と、優れた環境資源としての活用が求められています。

特徴 2

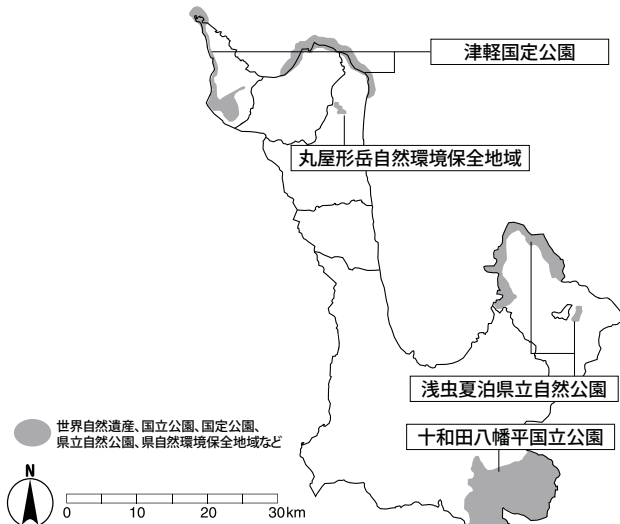
八甲田山系から陸奥湾へ注ぐ河川や津軽半島中部から陸奥湾や津軽海峡に注ぐ河川があり、生活用水や農業用水として活用されています。

市街地には堤川、蟹田川、小湊川などが流れ、市街地の中で身近に自然を感じられる水辺空間となっています。

課題 2

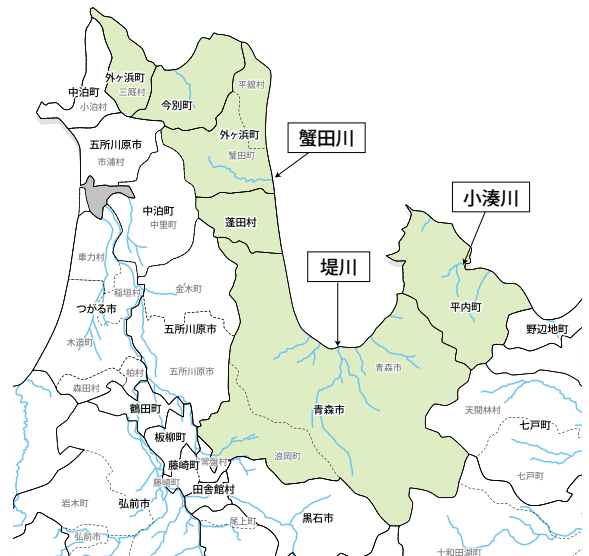
主力品種であるホタテの養殖場となる陸奥湾の水質を保全するため、河川の水質保全が求められています。また、うるおいのある市街地の形成に向けて、市街地を流れる堤川などの河川の親水性の向上が期待されます。

図 東青圏域の自然資源



資料：青森県環境生活部自然保護課

図 河川の状況 (県管理2級河川以上のうち主なもの)



特徴 3

八甲田連峰、陸奥湾、夏泊半島、竜飛崎などの優れた自然景観が圏域のシンボルとなっています。また、本圏域は山林に覆われた山地・丘陵地が多く、

限られた平坦地においてコンパクトに集約された漁業集落や市街地、農地などで構成された景観が特徴となっています。

課題 3

八甲田連峰や陸奥湾などの象徴的な景観や、山地・丘陵地と海岸線が近接する特徴的な景観の保全が求められています。

## II 圏域の将来像

### 多彩なビジネスや生活様式を実現できる県都を中心とした活力圏域

本圏域は本州と北海道を結ぶ交通の要衝として発展し、全県をカバーする行政機関や金融機関などが集まる政治・経済の中心地となっています。圏域経済は人財、情報、資金の集積や交流機会の豊かさに支えられているため、その基盤となる求心力あるコンパクトシティの形成と広域交通網の充実が欠かせないものとなっています。今後は都市的空間と自然的空間が近接した環境特性をいかしながら、新幹線の延伸や人口減少などの社会環境の変化に適切に対応し、多彩なビジネスチャンスを生み出し続けるとともに、多様な生活文化を創出し、その豊かさを享受できる圏域をめざします。

このような将来像を(1)産業、(2)生活、(3)環境の各側面に分け、そのあるべき空間構造を整理すると、以下の(1)~(3)のように描かれます。

#### (1) 県内外との交流の中心となる圏域

県都として高次都市機能が集積した青森市を中心に、商業や業務といった都市型サービス産業の集積を図ります。

さらに青森市と短時間で結ばれる農山漁村で構成される本圏域では、青森市がもつ求心力と農山漁村がもつ生産力を高める土地利用を誘導することにより、地場産品を軸に多彩なビジネスチャンスが生まれる圏域の形成をめざします。

企業が戦略的事業展開を図る上で優位性のある圏域として、東北新幹線、青森空港、青森港、東北縦貫自動車道などをいかして、県内外との交通結節機能の強化をめざします。

#### (2) 県都を中心とする暮らしやすく働きやすい圏域

既存ストックをいかしながら、安全安心な「食」、心やすらぐ「自然」、多彩な「文化」を享受できる暮らしやすく働きやすい中心都市の形成を図るとともに、遠隔地の津軽半島北部などでは、複数の拠点地区が連携して身近な都市的サービスを補完しあう圏域の形成をめざします。

雪国対応や交通弱者への配慮に重点を置きながら、交通の要衝・青森市と農山漁村をつなぐ交通網や、市街地内交通網の充実をめざします。

#### (3) 陸奥湾と山林地域に沿う環境調和型圏域

「青い森」や「青い海」の保全を図るとともに、都市的空間と自然的空間が近接する市街地環境をいかした都市の形成をめざします。

中心都市では、自動車に過度に依存しない交通体系の確立をめざします。また、堤川や蟹田川、小湊川などの河川や、閉鎖性水域である陸奥湾の水質保全を図りながら、緑の拠点や緑の軸がネットワーク化された圏域の形成をめざします。

十和田八幡平国立公園、津軽国立公園、浅虫夏泊県立自然公園をはじめとする圏域に広がる豊かな自然環境の保全と活用をめざします。

## III 都市づくりの方針

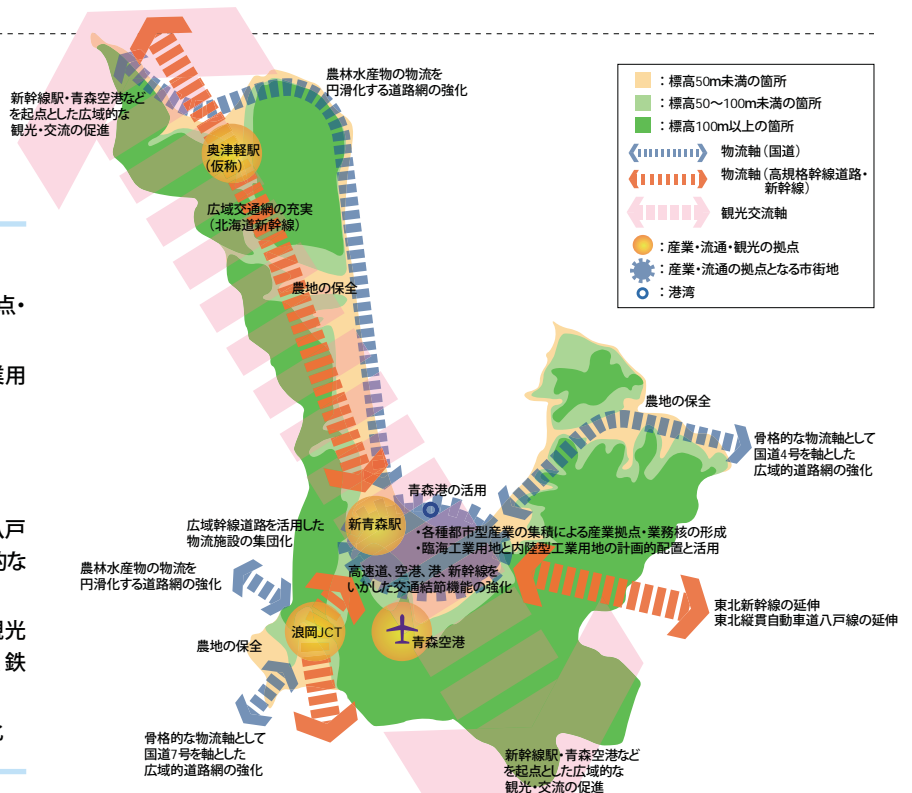
### (1) 「県内外との交流の中心となる圏域」

#### 【土地利用に関する視点】

- 様々な都市型産業の集積誘導による産業拠点・業務核の形成
- 既成市街地との調和に配慮した臨海型工業用地と内陸型工業用地の計画的配置と活用
- 圏域の各地に残る貴重な農地の保全

#### 【都市施設の整備に関する視点】

- 骨格的な物流軸として、東北縦貫自動車道八戸線の延伸、国道4号、国道7号を軸とした広域的な道路網の強化
- ビジネスにおける交流機会の増大と広域観光の展開に資する青森空港、青森港、新幹線、鉄道などを活用した交通結節機能の強化
- 広域幹線道路を活用した物流施設の集団化





## (2) 「県都を中心とする暮らしやすく働きやすい圏域」

### 【土地利用に関する視点】

- 県全体をサービス圏とする、高次都市機能が集積したコンパクトな市街地の形成
- 外ヶ浜町における医療分野を中心とした補完的都市機能の集積
- 今別町における教育分野を中心とした補完的な都市機能の集積
- 農山漁村においても豊かで快適な生活ができるよう、青森県との連携強化や、日常生活を支える主要な市街地・集落の環境整備

### 【都市施設の整備に関する視点】

- 他の圏域からも青森市の高次都市機能を利用できるよう、東北縦貫自動車道をはじめとする主要幹線道路や鉄道などによる全県的な交通ネットワークの結節機能の強化
- 冬季でも円滑な移動が可能になる交通環境の充実や、安心を支える代替路の確保
- 並行在来線をはじめとする青森市への交通アクセスの利便性の維持と向上



## (3) 「陸奥湾と山林地域に沿う環境調和型圏域」

### 【土地利用に関する視点】

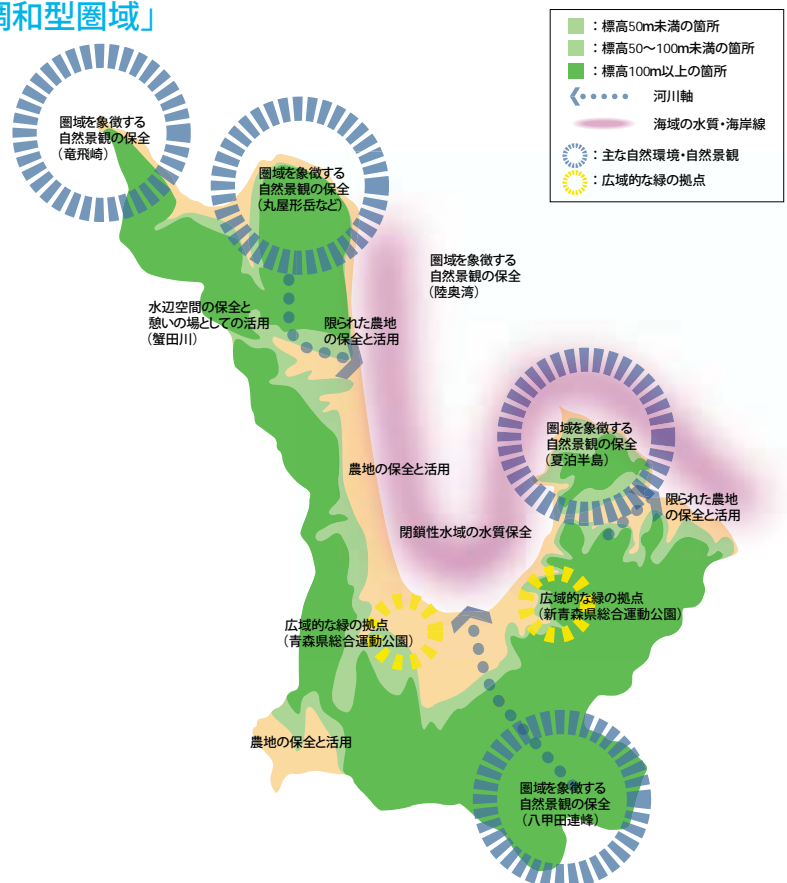
- 陸奥湾や背後の豊富な自然に囲まれた環境をいかした、水と緑あふれる良好な都市環境の形成

### 【都市施設の整備に関する視点】

- 市街地の分布に配慮した公園・緑地の配置
- 市街地内の水辺空間の活用と、水と緑のネットワーク形成
- 閉鎖性水域である陸奥湾の水質保全に資する公共下水道などの整備と利用促進

### 【自然的環境の整備または保全に関する視点】

- 自然をいかした都市景観の形成
- 圏域を象徴する自然景観として、八甲田連峰、陸奥湾、竜飛崎などを望む眺望景観の保全
- 十和田八幡平国立公園、津軽国定公園、浅虫夏泊県立自然公園をはじめとする圏域に広がる豊かな自然環境の保全と活用
- 堤川、蟹田川などの河川、陸奥湾に面する海岸線など、圏域が有する様々な水辺空間について、防災性の向上や生態系に配慮した保全と、市街地における身近な憩いの場としての活用



## IV 圏域としての土地利用マネジメントのあり方

### 課題

- ▶ 青森市では、旧青森市と旧浪岡町の合併により、同一市内に線引き都市計画区域と非線引き都市計画区域が並存しており、土地利用規制の格差が生じているため、都市計画区域の再編などの検討が必要です。また、浪岡地区の非線引き都市計画区域白地地域では、主に国道7号と青森空港を結ぶ幹線沿道や集落周辺で宅地化が若干みられる程度ですが、営農環境の保全の観点から、農地の保全が必要です。
- ▶ 国道280号バイパス周辺は、該当道路の延伸整備によって青森市とのアクセス性が高まりつつあることから、農地の宅地化がみられます。このことから、営農環境の保全の観点から農地・山林の保全が必要です。
- ▶ 今別町では北海道新幹線奥津軽（仮称）駅開業に伴い、開発圧力が高まると予想されるため、適切な土地利用マネジメントが必要です。

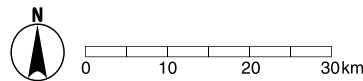
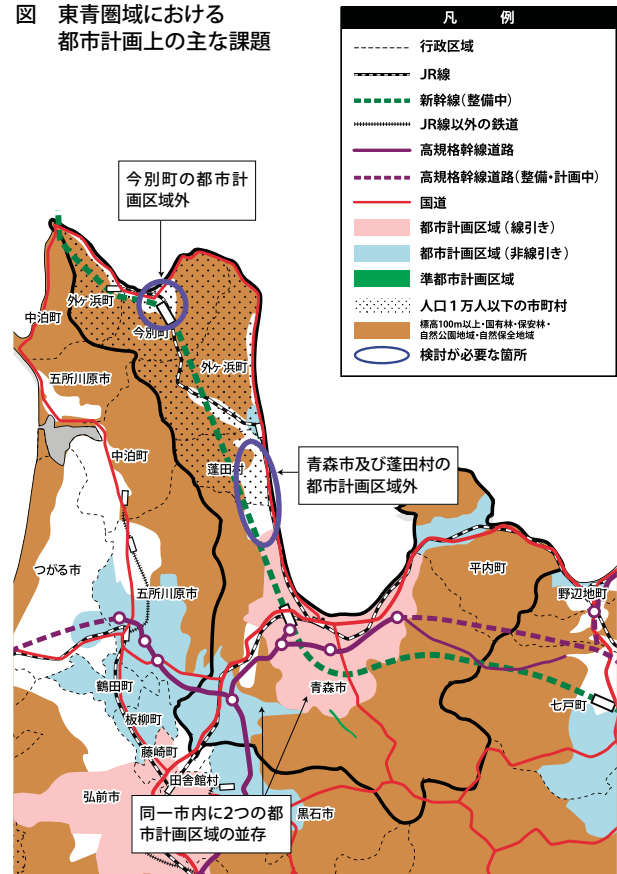


図 東青圏域における都市計画上の主な課題



### 検討すべき項目

- 青森、浪岡都市計画区域は、市町村合併や地理的条件による都市の一体性を鑑みた都市計画区域の再編を検討します。
- 浪岡都市計画区域を存続する場合においては、良好な農地を保全する観点から、白地地域について特定用途制限地域の指定などを推進します。

- 国道280号バイパス周辺は、今後開発圧力が高まると予想されるため、居住環境や営農環境の保全が必要な地区について都市計画区域の拡大などを検討するとともに、農業振興に係る諸制度の活用を推進します。
- 都市計画区域外の北海道新幹線奥津軽（仮称）駅周辺では、津軽半島の観光の起点としてふさわしい、快適かつ安全な地区の形成のため、準都市計画区域の指定を検討します。